

### 小社の売れ筋ベスト10！

**【第一位】 魂を統治する 私的な自己の形成**

ニコラス・ローズ(著) 堀内進之介、神代健彦(監訳)  
四六判 ISBN 978-4-7531-0333-1 512頁 本体価格:4,800+税

自己と世間との距離の取り方において、軍隊や職場、家族といった具体的な関係性のなかで「心＝魂」はどのようにふるまってきたのか。フーコーの「主体の系譜学」の成果を援用した「心的なもの」の科学をめぐる社会心理の分析。

**【第二位】 〈帝国〉 グローバル化の世界秩序とマルチチュードの可能性**

アントニオ・ネグリ、マイケル・ハート(著) 水嶋一憲、酒井隆史、他(訳)  
A5判 ISBN 978-4-7531-0224-2 592頁 本体価格:5,600+税

グローバル化による国民国家の衰退と、生政治的な社会的現実の中から立ち現われてきた世界秩序＝「帝国」とはなにか？グローバル化を包括的に再考し、それに対するオルタナティブな実践の可能性を構築する。

**【第三位】 負債論 貨幣と暴力の5000年**

デヴィッド・グレーバー(著) 酒井隆史(監訳) 高祖岩三郎、佐々木夏子(訳)  
A5判 ISBN 978-4-7531-0334-8 848頁 本体価格:6,000+税

現代人の首をしめあげる負債の秘密を、人類史的な視野から貨幣と暴力の5000年史の壮大な展望のもとに解き明かす。資本主義と文明総体の危機を測定し、いまだ書かれざる未来の諸可能性に賭け、21世紀の幕開けをしるす革命的書物。

**【第四位】 ホモ・サケル 主権権力と剥き出しの生**

ジョルジョ・アガンベン(著) 高桑和巳(訳)  
A5判 ISBN 978-4-7531-0253-2 288頁 本体価格:3,500+税

近代主権論の嚆矢カール・シュミットの「例外状態」の概念をアーレントの「全体主義」とフーコーの「生政治」の成果をふまえて批判的に検討、近代的主権の位相をとらえた画期的な政治哲学。現代政治の隠れた母型を明かす。

**【第五位】 情念・感情・顔 「コミュニケーション」のメタヒストリー**

遠藤知巳(著)  
A5判 ISBN 978-4-7531-0330-0 774頁 本体価格:7,800+税

近代社会の全体を外から俯瞰する思考がリアリティを喪失して、近代の地平が見えなくなりつつある。本書は、主体の内部作用という薄明の領域に足を踏み入れながら、異世界性に触れようとする、西洋近代をめぐる言説分析。

**【第六位】 具体性の哲学 ホワイトヘッドの知恵・生命・社会への思考**

森元齋(著) 四六判 ISBN 978-4-7531-0328-7 320頁 本体価格:2,600+税

**【第七位】 戦後日本の社会思想史 近代化と「市民社会」の変遷**

小野寺研太(著) 四六判 ISBN 978-4-7531-0326-3 352頁 本体価格:3,400+税

**【第八位】 観察者の系譜 視覚空間の変容とモダニティ**

ジョナサン・クレーリー(著) 四六判 ISBN 978-4-7531-0245-7 312頁 本体価格:3,200+税

**【第九位】 国家とはなにか**

萱野稔人(著) 四六判 ISBN 978-4-7531-0242-6 283頁 本体価格:2,600+税

**【第十位】 人民とはなにか？**

アラン・バディウ、他(著) 四六判 ISBN 978-4-7531-0325-6 228頁 本体価格:2,400+税

番線	冊数	書籍名
	冊	
	冊	

※上記の書籍は注文書籍となります。(FAXまたは電話にてご返信お願い致します。)

以文社

好評既刊書のご案内！

# 新刊、売れてます！！

## モダニティの終焉からエコロジカルな時代へ！

複数性のエコロジー 人間ならざるものの環境哲学  
篠原雅武 著

四六判 上製カバー装 320頁 本体価格：2,600円

— 日本初公開となるティモシー・モートンのインタビューを収録！ —

地震、原発問題、無差別殺人、自殺……現在、われわれが感じるこの「生きづらさ」とはなんなのか？「エコロジー」概念を刷新し世界的な注目を集める思想家ティモシー・ノートンは、現代人の生きる空間そのものが「うつ空間」と化しているという。都市空間の「荒廃」を問い続け、ヴェネチア・ビエンナーレ日本館展示にもかかわらずなど精力的な活動を続ける著者が、モートンと直接に対話しながら辿り着いた、自分への配慮と、ヒト・モノを含む他者との結びつきの環境哲学。……「人間が、人間だけで生きていくことのできていた時代が終わろうとしている」。



日本を再発明する 時間、空間、ネーション

テッサ・モーリス＝スズキ 著  
伊藤茂 訳

四六判 上製カバー装 308頁 本体価格：2,800円

— グローバル時代の日本研究の基本図書 —

『辺境から眺める』で新鮮な日本論を展開して日本の論壇にデビューした著者の理論的背景の展開。自明視された均質な日本像を覆し、複数の伝統が時間と空間の中で降り直され境界線を越えていく姿を展望する。国境を越え変化しつづける未来へ。



レイシズム・スタディーズ序説

鵜飼哲、酒井直樹、テッサ・モーリス＝スズキ、李考徳 著  
四六判 上製カバー装 320頁 本体価格：2,800円

— レイシズムが立ち現われる現場 —

人種主義が立ち現われる現場は、ある社会的な関係が人体の特徴などを通して反照し、私と他者の自己画定(アイデンティティ)を同時に限定するときである。この投射されたアイデンティティ・ポリティクスは現代のあらゆる社会関係に随伴する。本書は、この視点から、近代化とグローバル化で不透明化された現代を読み解く壮大な試みである。



02月01日発売予定！ キャリバンと魔女 資本主義に抗する女性の身体

シルヴィア・フェデリーチ 著  
小田原琳、後藤あゆみ 訳

四六判 上製カバー装 528頁 本体価格：4,600円

— 「ジェンダーとは階級である」 資本主義の起源は魔女狩りだった！？ —

16、17世紀の欧米を席卷した魔女狩りによって迫害・処刑された女性たちとその身体こそ、〈資本主義〉が恐れ、強制的に統治しなけりなかつた存在であり、シェイクスピアの戯曲『嵐(テンペスト)』に登場するキャリバンこそ、資本主義が生んだ植民地支配への象徴的な抵抗者だった……。「家事労働に賃金を！」のスローガンを掲げ、フェミニズム運動の中心的活動家のひとりであるシルヴィア・フェデリーチは膨大な歴史資料・民族誌の読解を通じて、マルクスの本源的蓄積、フーコーの身体論を批判的に検討。彼らが描ききれなかつた魔女狩りから植民地支配、今日のグローバルな規模で実施されるIMF・世界銀行の構造調整プログラムによる搾取を、資本主義による女性への暴力と支配の歴史として、フェミニストの視点から書き換える意欲作。

